



す ま い る

園小中箱根教育合言葉 「箱根を愛し、かしこく、やさしく、たくましく」



あけましておめでとうございます

冬休みの約束は3つ。「挨拶をする」「元気に外で遊ぶ」「お手伝いをする」でした。始業式で、その約束について聞いてみると6人とも元気に手をあげ、「あけましておめでとうございますってご挨拶したよ。」「お箸やお茶碗を並べたよ。」「お料理の手伝いをした。」「外で雪遊びをして楽しかった。」などの声が聞かれ、しっかりと約束を果たせたようでした。

3学期の目標は、「みんなでenjoy (たのしく) happy (しわせな) 大作戦」になりました。どこかの大学駅伝のフレーズのように、このメンバーで過すことも残りわずか。「みんなで」は、一人一人の良さを活かしながらも、自分一人が楽しければよいのではなく、友達の思いに気付き、寄り添いながら共に楽しい日々を過ごし、この年度の締めくくりになればという願いがこもっています。

年長児の3人の今年の抱負は「学校(生活)を楽しむ」「漢字やカタカナを頑張る」「かっこいい1年生になって早く走れるように頑張る」と3人とも小学校への期待が膨らんでいることが伺えました。これからも園で充実した実体験を通して、小学校教育に繋がるようにしていきたいと思えます。保護者の皆様、地域の皆様、本年もどうぞよろしくお願いたします。

学校教育評価及び一貫教育アンケートについて

12月に令和3年度の学校教育評価と園小中一貫教育について、保護者の皆様にアンケートを取らせて頂きました。コロナ禍でも「教育は止めない」という思いで、皆様にもご協力を頂きながら感染予防に配慮し、幼児教育の保障に努めてきました。特に、コロナ禍という点においては、箱根幼稚園の少人数のメリットが最大限活かされた気がしました。

(アンケートより)

- ・園生活が充実できるよう、様々な工夫を凝らして頂きありがとうございます。
- ・たくさん散歩をしていただいたおかげで、体力も付き免疫力もアップしました。
- ・地域を歩き、地域の方と交流をさせて頂き、大人同士の付き合いとはまた違った地域の温かみを感じました。
- ・一人一人の個性を大事にし、協調性を学べる行事等を考えていただきありがとうございます。
- ・一人一人の個性を伸ばすよう日々接して下さり、行事でも子どもの興味のあることや特技を見ることが出来嬉しく思います。
- ・コロナ禍で特に少人数園の良さを実感しました。等改めて箱根幼稚園の教育を支えてくださった地域の方、保護者の皆様に感謝申し上げます。

元気に育っています。さくら草

秋に、恩賜公園の方から桜草の苗を分けて頂きました。今、とてもかわいい花が咲いています。お日様に向けて咲く姿が何とも愛らしいです。自分の花に水をあげながら子ども達も生長を楽しんでいます。



褒めるとは…

先日、研修に参加した職員からこんな報告がありました。コロナ禍、人と接する機会が減り、様々な規制の中で過してきた子ども達。本来なら様々な生活体験の中で、個々に達成感を味わい、そこで褒められたり認められたり(承認)という経験を積むというポジティブな循環が形成されるはずが思うようにいかず、マイナスの循環が続くと子ども達の「心」「体」「行動面」にネガティブな反応(情緒不安・体の痛み・怒りやすいや落ち着きがなくなる等)が起こってくるということです。そうならないために「子どもの承認欲求を満たす」ことが大切になってきます。その取り組みには①「視覚型」その子の目に見える良さを声掛けする。(ex きれいに食べたね等)②「依頼型」子どもに役割を与え、信頼しているよというメッセージを伝えるもの。この依頼を通じて、子どもの達成感を得る機会を増やす。(ex お家のお手伝い…成功体験が詰めるように達成しやすい内容と子どもへの感謝と褒めることが大事)③「称賛型」直接的、具体的に褒める。(ex 跳び箱をよく頑張って練習したね。)④「伝聞型」第三者が褒めていた内容を伝える。人は直接的に褒められるより、間接的に褒められる方が嬉しいことがある。(ex おばあちゃんが、先生が褒めていたよ)このプラスのストロークをたくさん受け取ることで自信をつけ、心の余裕が持てるそうです。コロナ禍、子ども達は知らず知らずのうちに今までにないストレスを抱えているのかもしれませんが。大人は、子どもとの関わりを意識し個々の心の欲求に応えていきたいですね。褒めることでもう一つ気を付けたいことは、できることだけを褒めるのではなく、頑張っている過程を褒めることが大切かと思えます。できない自分はダメなんだと感じないように。そして、「ありがとう」の感謝の言葉は、大きな力を育むと感じています。(箱根町コーディネーター連絡会、鈴木隆弘SVの講話より)